

キングカメハメハ

39,460票



2004年 NHKマイルカップ(GI)

春の府中に降臨した大王

春の東京で行われる3歳GIのうち、史上初めてNHKマイルカップと日本ダービーを両方制した馬、それがキングカメハメハだった。

2歳秋は新馬戦、エリカ賞と2戦2勝。3歳となった2004年は初戦の京成杯で3着と生涯唯一の敗戦を喫するが、すみれS、毎日杯をいずれも2馬身半差で連勝したキングカメハメハは、皐月賞をパスしてNHKマイルカップへと駒を進めた。

相手はニュージーランドTなど4連勝中のシーキングザダイヤ、皐月賞3着から臨む快足馬メイショウボーラー、朝日杯フューチュリティSの覇者コスモサンビームなど多士済々。しかし、速い流れの中を中団で追走したキングカメハメハは、直線で外から凄まじい末脚を繰り出すと、あっという間に抜け出して差を開く。最後は、今もレース史上最大着差となっている5馬身差でゴール。勝ちタイムは当時のレースレコードという、まさに衝撃的な圧勝を飾ったのだった。

続く日本ダービーもハーツクライやダイワメジャーらを相手に1馬

身半差、当時のコースレコードで勝利。同じ松田国英厩舎の先輩であるクロフネやタニノギムレットでも成し遂げられなかった2つのGIのダブル制覇は「変則二冠」として讃えられた。

秋も始動戦の神戸新聞杯を勝利したキングカメハメハは、天皇賞(秋)を目指す中、屈腱炎を発症し、わずかに8戦で引退。しかし種牡馬入り後の活躍は、現役時代に優るとも劣らないものとなった。

2010、11年にJRAリーディングサイヤーに輝いたキングカメハメハは、以降も首位こそディープインパクトに譲ったが、7年間、2位を堅持した。産駒のJRA通算勝利数はディープインパクト、サンデーサイレンスに次ぐ歴代3位。ロードカナロア、アパパネ、ドゥラメンテ、レイデオロ、ホッコータルマエなどの名馬、後継種牡馬を輩出し、19年の死後もなお、日本競馬に多大な影響を与え続けている。

第9回 NHKマイルカップ(GI)

2004年5月9日 東京競馬場 1600m(芝・左) 雨・良 18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	キングカメハメハ	牡3	57	安藤 勝己	松田 国英	1:32.5	①	⑨⑨
2	コスモサンビーム	牡3	57	四位 洋文	佐々木 晶三	5	④	⑨⑨
3	メイショウボーラー	牡3	57	福永 祐一	白井 寿昭	1 3/4	③	③③
4	ダイワバンディット	牡3	57	北村 宏司	増沢 末夫	1/2	⑫	⑥⑥
5	ビッグファルコン	牡3	57	吉田 豊	中尾 正	2	⑯	⑰⑰

キングカメハメハ King Kamehameha 2001年3月20日生 牡 鹿毛

父:Kingmambo 母:マンファス 母の父:Last Tycoon
生産:早来・ノーザンファーム 馬主:金子真人氏
通算成績:8戦7勝

主な勝ち鞍

2004年 日本ダービー(GI)、NHKマイルカップ(GI)、
神戸新聞杯(GII)、毎日杯(GIII)



2004年日本ダービー(GI)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
1位:キングカメハメハ(39,460票)

2^位 エルコンドルパサー 32,394票



無敗で1998年の本競走を制す。2着に1馬身3/4差をつける快勝であった。同馬は翌99年に日本調教馬として初めて凱旋門賞で2着に入ったことでも有名。

3^位 クロフネ 28,940票



2001年の優勝馬。単勝オッズ1.2倍という圧倒的人気を受けての勝利であった。秋にはジャパンカップダートに勝ち、同一年で芝・ダートの両GI制覇を飾っている。

4^位 ミッキーアイル 13,451票



2014年のNHKマイルカップを制したのが同馬。好スタートから最後まで先頭を譲ることなく、府中の長い直線をクビ差逃げ切って優勝したのであった。

5^位 アエロリット 12,103票



2017年の優勝馬。桜花賞(5着)からのローテーションで参戦すると、快足を生かして他馬を完封。2着のリエネソーロに1馬身半差をつけてGI初勝利を飾った。



特設サイト